

子どもゆめ基金 20 周年記念事業

ようこそ！キビのもり はる・なつ・あき・ふゆ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

四季折々に変わる吉備の自然を楽しめる活動や講師による講義を通して、幼児期の体験活動の重要性を知る。

2. 事業の概要

（1）期日

なつ①	令和3年 7月 4日（日）	日帰り
なつ②	令和3年 8月 1日（日）	日帰り
あき	令和3年10月 9日（土）～10日（日）	1泊2日
ふゆ①	令和3年12月11日（土）～12日（日）	1泊2日
※以下、コロナウイルス感染症拡大のため中止		
はる①	令和3年 6月 6日（日）	
	※緊急事態宣言の発令	
ふゆ②	令和4年 1月22日（土）～23日（日）	1泊2日
	※参加者辞退により実施不可	
はる②	令和4年 3月 5日（土）～ 6日（日）	1泊2日
	※まん延防止等重点措置の発令	

（2）参加者

- ① 募集対象・人数
幼児とその家族 各回8家族40名程度

- ② 参加人数
なつ① 7家族27人
なつ② 7家族22人
あき 5家族16人
ふゆ① 6家族22人

（3）企画・運営のポイント

- ① 四季折々の自然を楽しんでもらえるように、季節に合わせた野外活動を各回で取り入れた。
- ② 年間複数回実施の事業のため、参加者が固定しないように抽選基準を設けて実施した。
- ③ 他の幼児対象事業や過去の幼児対象事業からのリピーターが多く申し込みされる傾向にあったため、各回の主担当職員を変え、活動内容や進行方法のマンネリ化を避けた。
- ④ 幼児対象事業のため、活動時間にゆとりをもって計画・実施することで保護者の負担感を軽減するとともに、スムーズに進行できるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程 日帰り (なつ①、なつ②)

7月4日(日)	
10:00	開会式
10:15	自然と遊ぼう!①ネイチャーゲーム
12:00	昼食
13:00	自然と遊ぼう!②オリエンテーリング
14:45	閉会式

日程 日帰り (なつ②)

8月1日(日)	
10:00	開会式
10:15	自然と遊ぼう!①泥遊び
12:00	昼食
13:00	自然と遊ぼう!②川遊び
14:45	閉会式

日程 宿泊 (あき)

10月9日(土)		10月10日(日)	
13:00	受付・開会式	6:45	起床・洗面・掃除
14:00	自然と遊ぼう!①ミッションOL	7:30	朝食
15:00	休憩・就寝準備	9:00	親子でチャレンジ!野外炊事
17:30	夕食	13:00	自然と遊ぼう!②泥遊び
18:30	入浴	14:00	移動・着替え
19:30	絵本の読み聞かせ	14:30	閉会式
21:00	就寝		

日程 宿泊 (ふゆ①)

12月11日(土)		12月12日(日)	
13:00	受付・開会式	6:45	起床・洗面・掃除
14:00	自然と遊ぼう!クリスマスクラフト	8:00	朝食
16:00	休憩・就寝準備	10:00	親子でチャレンジ!ピザ作り
17:30	夕食	13:30	閉会式
18:30	入浴		
19:30	絵本の読み聞かせ		
21:00	就寝		

(2) 活動の状況



【なつ①：自然と遊ぼう！①】



【なつ①：自然と遊ぼう！②】



【なつ②：自然と遊ぼう！（泥遊び）】



【なつ②：自然と遊ぼう！（川遊び）】



【あき：自然と遊ぼう！（ミッション0L）】



【あき：絵本読み聞かせ】



【あき：親子でチャレンジ！野外炊事】



【あき：自然と遊ぼう！（泥遊び）】



【ふゆ①クリスマスクラフト】



【ふゆ①絵本読み聞かせ】



【ふゆ①：ピザ作り】



【ふゆ②：ピザ作り】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：80% やや満足20%

(2) 参加者の声

- ① ハイキングでミッションをクリアすることがとても楽しめた。
- ② なかなか家庭ではできないので、助かる。
- ③ 自然に触れ合うことができ、家族みんなで楽しむことができた。
- ④ リースの蔓を取ってきたり、ピザで釜から作ったりしたことで、大人も楽しく参加できた。

(3) 成果

- ① 夏と秋の回では、普段使われていない場所を「泥遊び」の場として有効活用した。泥遊びや川での水遊びは、家庭ではなかなかできない体験だと参加者から好評だった。
- ② 宿泊で実施した回では、県内の絵本専門士と連携し、絵本の読み聞かせを実施した。活動を交えた時間にしていただき、子供だけでなく、保護者も楽しめる時間となった。また、保護者からは、絵本専門士の方にお薦めの絵本を聞くことができたと言ってくれた。

(4) 今後の課題

- ① コロナウイルス感染拡大防止のため、家族間での接触を避ける活動を中心に展開したが、今後は家族間の交流ができるような活動を検討していく。
- ② 兄弟での参加も可能としたが、幼児に合わせた活動になってしまうため、活動の難易度に幅を持たせるなど、兄弟も楽しめる内容を工夫する必要がある。

担当：事業推進係兼企画指導専門職付
竹井 楓夏